

新長崎県植物誌ノート (長崎県植物誌補遺) 11

中西 弘 樹¹⁾

Additional Notes on the Flora of Nagasaki Prefecture 11

Hiroki NAKANISHI¹⁾

はじめに

本研究は2015年に出版した「長崎県植物誌」(中西 2015) の目録の補遺を中西 (2022a) に続いて記載するのが目的である。すなわち、分類の見直しによって種が変更されたもの、記載が誤ったものあるいはもれたもの、その後発見された県新産の植物と希産種の産地追加を記録しておきたい。記載の形式は地名の後に、国土地理院 5 万分の 1 地形図の図幅名および 4 分割の位置、3 次メッシュ地図番号、海拔、採集または確認年月日、標本番号の順に記す。ただし、盗掘の恐れがある種については詳細な情報は省略した。

県新産の植物

種の変更

5. ヒメミズワラビ *Ceratopteris gaudichaudii* Brongn. var. *vulgaris* Masuyama et Watano (イノモトソウ科)

これまでミズワラビとされてきたものは 2 種が含まれ、熱帯域に見られ、日本では沖永良部島以南に分布するミズワラビ *C. thalictroides* と、温帯域に見られ、奄美大島以北に見られるヒメミズワラビ *C. gaudichaudii* var. *vulgaris* とに区分された (海老原 2016)。両種の形態的な違いは変異もあり、ほとんど区別できず、遺伝的解析をしないと同定できないが、本県でこれまでミズワラビとしてきたものは分布からヒメミズワラビになる。

新産の在来種

66. シチトウハナワラビ *Botrychium atrovirens* (Sahashi) M. Kato (ハナヤスリ科) (図 1)

東彼杵郡波佐見町永尾郷 [早岐 1, 4929-57-46], 130m, Feb. 13. 2018, (No. 24396), 西海市西海町中



図 1. シチトウハナワラビ

浦北郷 [佐世保南部 2, 4929-07-30], 190m, Apr. 8. 2018, (No. 24439), 同市大瀬戸町雪浦幸物郷幸物入口 [神 浦 1, 4929-35-47], 180m, Feb. 20. 2020, (No. 25000), 長崎市三重町三重川中流域 [長崎 3, 4929-16-90], 60m, Mar. 24. 2019, (No. 24687), 五島市岐宿町河務一ノ河川沿い [福江 4, 4928-06-62], 20m, Mar. 20. 2021, (No. 25533), 佐世保市吉井町梶木場串田池畔 [佐世保 1, 4929-75-38], 310m, Oct. 19. 2022, (No. 26068), 東彼杵郡川棚町岩屋郷岩屋 [早岐 2, 4929-47-92], 150m, Feb. 19. 2023

かつてオオハナワラビと混同されていたもので、伊豆諸島で注目され、その後本州、四国、九州にも広く分布することがわかってきた。本県では江頭一政氏が以前から注目しており、江頭 (2021) の図 2 の変異体としたものがシチトウハナワラビであり、この図はオオハナワラビとの違いがよくわかる。シチトウハナワラビの葉は切れ込みが細かく、深緑色で光沢がある。しかし、両種はしばしば同じ場所に生育しており、また区別しがたい形質の個体もある。

67. ヒメコハシゴシダ *Thelypteris angustifrons* (Miq.) Ching × *T. cystopteroides* (D.C.Eaton) Ching (ヒメシダ科) (図 2)

¹⁾ 〒851-2130 長崎県西彼杵郡長与町まなび野 2 丁目 29-4 亜熱帯植物研究所



図2. ヒメコハシゴシダ

五島市玉之浦町戸竹〔玉之浦2, 4828-79-59〕, 10 m, Nov. 18. 2021, (No. 25901)

コハシゴシダとヒメハシゴシダの雑種で、両種が混生する場所にしばしば見られる。上記の地はやや湿った古い切り通しで、両種が多く生育しており、雑種と思われる個体群は、ヒメハシゴシダ群落の中に混生していた。本雑種については江頭（2023）の図4にコハシゴシダ、ヒメハシゴシダとの違いの写真が載っている。

68. フウセンアサガオ *Operculina turpethum* (L.) Silva Manso (ヒルガオ科) (図3)



図3. フウセンアサガオ

西海市大瀬戸町瀬戸西浜〔神浦1, 4929-35-11〕, 1 m, Dec. 10. 2021, (No. 25923) (図3)

本種は熱帯性のつる植物で、日本では八重山諸島から沖縄本島まで知られているが、日本列島にも漂着種子起源の実生が知られている（中西2013a, b）。実生個体は多くが本葉1～4枚つけた幼個体で、まれに茎が数10cm伸びた個体もあった。しかし、上記の地では、フウセンアサガオの根元の茎は直径2.5cmの太さで、そこから太い茎が4本、細い茎が4本伸び、さらに多く枝分かれし、約6×30m²の範囲に広がっていた。また、多くの花と若い果実をつけており、定着個体とみなした。詳細はすでに中西（2022b）に報告

してある。

希少植物の新産地

60. オオバミヤマノコギリシダ *Dryopteris hayatae* N. Ohta et M. Talamiya (メシダ科)

西海市西彼町平原郷中部〔大村3, 4929-36-51〕, 130m, Nov. 12. 2020, (No. 25408)

これまでミヤマノコギリシダの一型と考えられていたが、今は別種とされている。ミヤマノコギリシダよりも大きく、上記の産地では葉は長さ110cmほどで、半分ほどが葉柄であった。最下羽片の葉柄はふつう1cm以上になるが、ここではそれよりも短かった。県内ではまれで、これまで長崎市2カ所と五島市で知られている。

61. チャボイ *Eleocharis parvula* (Roem. et Schult.) Link ex Bluff, Nees et Schauer (カヤツリグサ科)

壱岐市芦辺町, 諸吉南触〔勝本③-1, 5029-55-31〕, 3 m, Oct. 14. 2022, (No. 26052)

南島原市加津佐町や対馬市美津島町に知られていたが、いずれも絶滅し、県内には知られていなかったが、千々布義朗氏によって壱岐から発見された（千々布2022）。筆者も2022年10月にその生育地を訪れ確認した。生育面積は全体で約100m²になり、道路の内側の残された塩性湿地と近くのコングリートの溝にも生育していた。

62. センダイスゲ *Carex lenta* D. Don var. *endaica* (Franch.) T. Koyama (カヤツリグサ科) (図4)



図4. センダイスゲ

壱岐市芦辺町八幡浦〔勝本④-3, 5029-56-43〕, 20 m, Oct. 14. 2022, (No. 26056)

ナキリスゲの仲間の中ではやや小型で、地下茎を伸ばすことで野外でも比較的簡単に同定できる。県内各地に分布すると思われるが、十分調査されていない。壱岐からは初めての記録である。

63. スルガラシ *Cymbidium ensifolium* (L.) Sw. (ラン



図5. スルガラン

科) (図5)

長崎市北部 [長崎2,], Oct. 10. 2020; 西彼杵郡長与町 [長崎1,], Oct. 20. 2020

熱帯から分布し、日本では九州と四国に記録されているが、きわめてまれで、環境省のレッドリストでも絶滅危惧種IAに指定されている。九州では熊本県天草諸島と長崎県平戸市田平町 (邑上 2015) に知られていた。以前からカンランと思われていた個体の開花を確認した結果、多くがカンランではなく本種とわかった。花を確認しないとほとんどカンランと区別できない。いくつかの開花できる株はイノシシの掘り起こしによって消滅してしまった。

64. タコノアシ *Penthorum chinense* Pursh (タコノアシ科) (図6)



図6. タコノアシ

西海市大瀬戸町多以良内郷北部 [神浦1, 2m, 4929-35-82], Nov. 3. 2022, (No. 26118)

これまで県内では諫早市 (飯盛町)、平戸市、松浦市 (福島町)、五島市 (久賀島) で記録されているが、上記の海岸近くの放棄水田跡の湿地でも生育しているのを発見した。約50株が見られたが、日当たりが悪く、土壌の加湿のせいか、いずれの個体も小さいものばかりであった。

引用文献

- 千々布義朗 2022. 壱岐でチャボイ (カヤツリグサ科) を確認. 長崎県植物研究会ニュースレター (13) : 3
- 海老原 淳 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.
- 江頭一政 2021. フユノハナワラビ. 長崎県植物研究会ニュースレター (19) : 6-7.
- 江頭一政 2023. ヒメハシゴシダとヒメコハシゴシダ (雑種). 長崎県植物研究会ニュースレター (17) : 6-8.
- 邑上益朗 2015. 平戸の生物 (1) 植物. 平戸紀要特集号編集委員会編「平戸の自然誌」. pp. 23-84. 平戸市, 平戸.
- 中西弘樹 2013a. 九州における熱帯産ヒルガオ科植物の海流散布. 生態環境研究, 20 : 1-7.
- 中西弘樹 2013b. 九州北部および西部における漂着種子起源の実生集団から見た海流散布. 植生学会誌, 30 : 17-24.
- 中西弘樹 2015. 長崎県植物誌. 388pp. 長崎新聞社, 長崎.
- 中西弘樹 2022a. 新長崎県植物誌ノート (長崎県植物誌補遺) 10. 長崎県生物学会誌91 : 15-17.
- 中西弘樹 2022b. フウセンアサガオ *Operculina turpethum* (L.) Silva Manso (ヒルガオ科) の九州における新産地と海流散布. 生態環境研究28(1) : 1-4.